

第1次

第1時

本時の
目標

三枚のつばみの写真からどのような花が咲くかを予想し、教師の範読を聞いて内容の大体を知る。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 三枚のつばみの写真を提示して、気づいたことを話し合う。</p> <p>2 題名「つばみ」を知り、どんな花が咲くかを予想する。</p> <p>3 教師の範読を聞き、それぞれのつばみから、何の花が咲いたかを確認する。</p> <p>4 今後の学習予定を伝える。</p>	<p>これは何でしょう。気づいたことはありませんか。</p> <p>○黒板に一枚ずつつばみの写真を貼り、気づいたこと（色、形、様子）を自由に発表する。教室の大型テレビで提示するのもよい。</p> <p>これから読む文章の題名は「つばみ」といいます。どんなことが書かれていると思いますか。</p> <p>○「題名」という学習用語を押さえ、どんな内容が書かれているのかを予想し、興味をもてるようにする。</p> <p>黒板の三枚の写真をみましょう。これは、何のつばみでしょう。</p> <p>○フラッシュカードのように提示すると、楽しみながら確認することができる。</p> <p>明日から「つばみ」を詳しく読み、「つばみはかせ」になりましょう。</p>	<p>●幼稚園で育てたよ。これは、あさがおのつばみだね。</p> <p>●ねじれていて、細長い形をしているよ。</p> <p>●三つとも、つばみの形が違ふよね。</p> <p>●紫色のつばみは、初めて見たよ。</p> <p>●つばみから、花が咲くお話だと思うよ。</p> <p>●だから、何の花のつばみが書いてあると思う。</p> <p>●前に読んだお話の題名は、「はなのみち」だったよ。</p> <p>●以前に読んだ物語を想起させ、題名からどのような内容なのかを予想できることを知らせる。</p> <p>●これは、あさがおのつばみです。</p> <p>●これは、はすのつばみです。</p> <p>●これは、ききょうのつばみです。</p> <p>●「答え」に当たる部分を意識して、主語と述語を用いて発表できるようにする。</p> <p>●今後、一時間の学習を終えるたびに、「つばみはかせ」に近づいているというイメージをもてるようにする。</p>

第2次

第2時

本時の
目標

あさがお、はす、ききょうの順序で説明されていることを意識し、本文と写真を対応させて内容の大体を捉えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 三枚の写真を提示し、花の名前を答える。</p> <p>2 それぞれのつばみが、どの順序で書かれているかを確かめる。</p> <p>3 花の写真と本文を対応させて読み取る。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>問題を出します。これは、何のつばみでしょう。</p> <p>○教材文の「問い」と同じように聞くことで、次時以降、「問い」に当たる文を意識できるようにする。</p> <p>この三つのつばみは、どういう順番で書かれていたでしょうか。</p> <p>○教科書で確認し、あさがお、はす、ききょうの順序で書かれていることを捉える。</p> <p>黒板に教科書の文章が三つあります。これらは、どのつばみのことを説明しているのでしょうか。正しい写真を選びましょう。</p> <p>○どうしてその写真を選んだのかを問うことにより、叙述を根拠に捉えられるようにする。</p> <p>○「証拠の文」という言葉を用いてもよい。</p> <p>今日はどんなことを学習しましたか。</p> <p>○「つばみはかせ」に近づいたことを価値づける。</p>	<p>つばみ</p> <p>どのようなじゅんばんかな</p> <p>①あさがお</p> <p>P55の 写真</p> <p>↓</p> <p>②はす</p> <p>P57の 写真</p> <p>↓</p> <p>③ききょう</p> <p>P59の 写真</p> <p>「しょうこがたいせつ」</p> <p>P56の 写真</p> <p>あさがお</p> <p>「いちまいいちまいのはなびらが、はなれていきます。」</p> <p>P58の 写真</p> <p>はす</p> <p>「さきのほうからいつにわかれて、ひらいていきます。」</p> <p>P60の 写真</p> <p>ききょう</p> <p>「そして、とちゅうからはつながったまま、はながさきます。」</p>

第2次

第3時

本時の
目標

あさがおのつぼみの説明から「問い」と「答え」に当たる文を知り、「答え」の後に詳しく説明している文章があることを読み取る。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 あさがおのつぼみの様子を読み取る。</p> <p>2 「問い」と「答え」に当たる部分を確認する。</p> <p>3 「答え」の後に書かれていることを確認する。</p> <p>4 学習を振り返り、次の学習課題を確認する。</p>	<p>あさがおのつぼみは、どうなっていますか。</p> <p>○教室の大型テレビ等に写真を写して、あさがおのつぼみの特徴に気づけるようにする。</p> <p>「これは、なんのつぼみでしょう。」と聞かれると、みなさんはどんな感じがしますか。</p> <p>このようなクイズみたいな文を「問い」といいます。では、「問い」の「答え」は、どこに書いてありますか。</p> <p>答えの後には、二つの文があります。何が書かれているのでしょうか。</p> <p>○「答え」の後には、つぼみから花が咲くまでの説明になっていることを確認する。</p> <p>はすとききょうも同じように書かれていると思いますか。次の時間に読んでみましょう。</p> <p>○「つぼみはかせ」に近づいたことを価値づける。</p>	<p>●「問い」と「答え」を確認したら、「問い」は赤、「答え」は青に分けて教科書に線を引く。</p> <p>○答えの後には、花が咲くまでのことが書いてあるよ。</p> <p>○「だんだんと」とだから、少しずつ広がっていくんだね。</p> <p>○最後の文は、もう花になっているね。</p> <p>○同じように書かれていると思うよ。</p> <p>○もう「問い」と「答え」を見つけたよ。</p> <p>●次時への前向きな発言やつばきは、全体に広げたい。</p>

第2次

第4時

本時の
目標

はすとききょうの「問い」と「答え」の文を選び出し、それぞれ同じように書かれていることを捉えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 前時の復習をする。</p> <p>2 はすとききょうの「問い」と「答え」に当たる文を見つける。</p> <p>3 詳しく説明している文章を読み取る。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>前の時間に学んだ大切な言葉が二つありました。何でしたか。</p> <p>○「問い」と「答え」の文はセットにして模造紙などに書いて、教室に掲示するとよい。</p> <p>今日は、はすとききょうも同じように書かれているのか確かめましょう。</p> <p>○「問い」には赤、「答え」には青と色を分けて線を引くようにする。</p> <p>それでは、「答え」の後の文は何が書かれているでしょうか。</p> <p>○黒板に文章を拡大掲示し、同じような文章構成で書かれていることを捉えられるようにする。</p> <p>三つのつばみの書き方は、どうなっていましたか。</p> <p>○「つばみはかせ」に近づいたことを価値づける。</p>	<p>○「問い」と「答え」を習ったよ。</p> <p>○クイズみたいにきている文が、「問い」だったよね。</p> <p>○「これは、なんのつばみでしょう。」が「問い」で、「これは、あさがおのつばみです。」が「答え」だったね。</p> <p>○やっぱり同じような文になっているね。</p> <p>○ページをめくるとすぐに「答え」が書いてあるね。</p> <p>○「問い」の後には、すぐに「答え」が書いてあるよ。</p> <p>○三つの花のつばみは、全部「問い」と「答え」があるね。</p> <p>○あさがおと同じように、どうやって花が咲くかが書いてあるよ。</p> <p>○「問い」の後には、三つの文があるんだね。</p> <p>○文の終わりが、二つ目の文は「いきます」で、三つ目の文は「さきます」が同じ言葉になっているよ。</p> <p>○三つの書き方が同じになっていたね。</p> <p>○書き方は同じだったけど、つばみの開き方は違うよね。</p> <p>○たくさん分かったから、つばみはかせに近づいたね。</p>

第2次

第5時

本時の
目標

教科書と教師が作成した文章を比べて考えることにより、「問い」と「答え」で書かれているよさに気づくことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 問いのない「つぼみ」の文章を提示して読む。</p> <p>2 教科書と問いのない文章を比べて考える。</p> <p>3 「答え」の位置について考える。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>先生も「つぼみ」の文章を作ってきました。みんなで読んでみましょう。</p> <p>○あさがおを例に、「問い」を抜いた文章を提示する。</p> <p>「問い」がある文章と「問い」がない文章では、どちらのほうがりやすいでしょうか。</p> <p>○「どうして教科書の文章には問いがあるのかな。」と投げかけて、「問い」のよさに気づけるようにしてもよい。</p> <p>次は、先生が「答え」の文を最後に見ました。「答え」が最初と最後にあるのでは、どちらのほうがりやすいでしょうか。</p> <p>○「答え」の一文を説明の最後にもっていく。黒板の短冊を動かして、視覚的に捉えることができるようにしたい。</p> <p>今日は、どんなことが分かりましたか。</p> <p>○「つぼみはかせ」に近づいたことを価値づける。</p>	<p>「先生」の作った「つぼみ」は、「問い」がないよ。</p> <p>「問い」がなくても、内容はよく分かるよね。</p> <p>「問い」があつたほうがいいと思うんだけど。</p> <p>「問い」があつたほうが、クイズみたいでドキドキするよ。</p> <p>「問い」はなくても、文が短くて読みやすいよ。</p> <p>「問い」があると、何のつぼみか気になったから、あつたほうがいいと思うな。</p> <p>「問い」の後に、すぐに「答え」があつたほうがいいよ。</p> <p>「これは、なんのつぼみでしょう。」ときかれたら、「答え」が気になるよね。</p> <p>「ページをめくってすぐに「答え」があるのいいよね。」</p> <p>●それぞれの文章を音読して比べて考えることにより、「問い」のすぐ後に「答え」があるよさを確認する。</p> <p>「問い」があると楽しくなることが分かったよ。</p> <p>「問い」のすぐ後に「答え」があるといいね。</p>

第2次

第6時

本時の
目標

「問い」と「答え」の文を意識しながら、ペアになって音読をすることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 学習課題を確認し、どのように音読をすればよいかを考える。</p> <p>2 ペアで「問い」と「答え」の文を意識して音読する。</p> <p>3 全体の前で音読をし、学習を振り返る。</p>	<p>今日は二人組で「つばみ」を音読します。「つばみはかせ」として上手に音読するには、どのように読めばよいでしょうか。</p> <p>○教師が一方的に音読のめあてを伝えるのではなく、まずは子どもがどのように読みたいかを考えるようにしたい。</p> <p>二人組になって音読をします。「問い」を読む人、「答え」を読む人に分かれて読みましょう。</p> <p>○「問い」「答え」以外の文章は、二人で合わせて読む。</p> <p>○最初は、教師が子どもとペアをつくり、全体の前で音読のしかたのモデルを見せるとよい。</p> <p>みんなの前で音読をしてくれる人はいですか。どんなところがよかったか、感想を伝えましょう。</p> <p>○「つばみはかせ」に近づいたことを価値づける。</p>	<p>●「問い」の文は、クイズを出すみたいに読みたいです。たくさんめあてが出されるが、全てを意識するのは難しい。その中から自分がいちばん意識したいことを選ぶことが大切である。</p> <p>○はつきりと読みたいです。</p> <p>○点と丸で区切って読むようにします。</p> <p>○間違えずに、すらすら読みたいです。</p> <p>○「問い」の文は、クイズを出すみたいに読みたいです。たくさんめあてが出されるが、全てを意識するのは難しい。その中から自分がいちばん意識したいことを選ぶことが大切である。</p> <p>○さんは、はつきり読めていてよかったです。</p> <p>○さんは、声がしっかり出ていました。</p> <p>○僕も○さんみたいに、すらすら読みたいです。</p> <p>●板書には、子どもの名前も書くとういだろう。</p>

第3次

第7時

本時の
目標

「つばみ」を読んで学習したことを生かして、すみれのつばみを説明する文章を書くことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 教師が用意したすみれのつばみの写真を提示し、学習課題を確認する。</p> <p>2 写真から、すみれのつばみの様子を読み取る。</p> <p>3 1～三文目までを確認する。</p> <p>4 すみれを説明する文（1～三文目まで）をワークシートに書く。</p>	<p>これは、先生がもってきたすみれのつばみの写真です。これから「つばみはかせ」になって、すみれのつばみを説明する文を書きましょう。</p> <p>○「これは、なんのつばみでしょう。」と問いかけ、興味を引きつけて提示してもよい。</p> <p>どんな形や色をしたつばみですか。</p> <p>○「つばみ」の文章の一文目に当たる。子どもたちが書くときに、参考になるように板書する。</p> <p>教科書の「つばみ」の一つ目の文から三つ目の文には、どんなことが書いてありましたか。</p> <p>○それぞれの文を全員で音読し、どのようなことが書かれていたかを確かめる。</p> <p>ワークシートに、すみれのつばみを説明する文を書きましょう。</p> <p>○児童の実態に応じて、ワークシートを工夫する。</p>	<p>つばみ</p> <p>「つばみはかせ」になって、すみれのつばみのぶんしょうをかこう</p> <p>すみれのつばみのようす</p> <div data-bbox="596 1164 755 1329" data-label="Text"> <p>すみれのつばみの写真</p> </div> <div data-bbox="596 1348 755 1584" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・ なすびみたい ・ むらさきいろ ・ おじぎをしている ・ ほそながいかたち </div> <p>①のぶん</p> <p>① さきがねじれたつばみです。 つばみのようす、かたち、</p> <p>② これは、なんのつばみでしょう。 ・ とい</p> <p>③ これは、あさがおのつばみです。 ・ こたえ</p>

第3次

第8時

本時の
目標

すみれのつぼみを説明する文章を完成し、友達と読み合おうとしている。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 四・五文目に書かれていることを確認する。</p> <p>2 四文目のつぼみの様子を考え、説明する文章を完成する。</p> <p>3 完成した文章を友達と読み合う。</p> <p>4 学習全体を振り返る。</p>	<p>今日は、すみれのつぼみの文章を完成させて、友達と読み合います。四つ目と五つ目の文は何が書いてありますか。</p> <p>すみれのつぼみから花が咲くまでは、どのようになっていますか。</p> <p>○花が咲く様子が分かる写真を提示する。動画を視聴すると、花が咲くまでの様子がよく分かる。</p> <p>完成した文章を友達と読み合いましょう。</p> <p>○ペアを作って読み合う活動にする。読み終えたら、感想を伝えるようにしたい。</p> <p>みなさんはりっぱな「つぼみはかせ」になりましたね。最後にどんなことを学んだか、振り返ってみましょう。</p> <p>○「問い」と「答え」という学習用語だけでなく、そのよさを子どもとやり取りをしながら学習全体を振り返りたい。</p>	<p>つぼみ</p> <p>「つぼみはかせ」になってぶんしょうをかんせいさせて、ともだちとよみあおう</p> <p>④ねじれたところがほどけて、だんだんとひろがっていきます。</p> <p>・はながさくまでのようす</p> <p>⑤そして、まるいはながさきます。</p> <p>・はなのようす</p> <p>④のようす</p> <p>すみれのつぼみが開いている途中の様子の写真</p> <p>・つぼみがうえをむいた ・はなびらがわかれて ひろがっていく</p> <p>⑤のようす</p> <p>すみれのつぼみが開ききった様子の写真</p> <p>ぶんのおわりの かきかたに ちゅういする</p>

■ 本実践案のポイント

説明文で何を学ぶのか。教師がそのことを理解したい。まずは、「内容」の読み取りである。本教材で子どもたちは、三種類のつばみの名前、特徴、そして花の咲き方を知る。しかし、内容だけを知って終わってはならない。説明文では「形式」、つまり「どのように書かれているか」を学ぶのだ。

例えば、本教材で子どもたちは初めて「問い」と「答え」で書かれた文章を読む。そこで大切なのが、「問い」と「答え」を教えただけで終わってはならないということだ。「問い」と「答え」があるよさを実感し、初めて実りある学習となる。説明文は、「教え込み」に走りやすい。教師の指示を一方的に伝え、子どもは受け身で活動していることも見られる。第一学年最初の説明文である。「内容」を知る楽しさ、「形式」のよさを感じる喜び。その両方を意識し、一年生の発達段階に適した単元を構想することが大切である。

■ 「形式」のよさを実感するのポイント

では、「問い」と「答え」のよさはどのように実感できるのだろうか。本単元では、第5時に教師が作成した「問い」のない文章を提示し、教科書の文章と比べる活動を行う。「どちらの文章のほうに分かりやすいか」と問うと、子どもは「問い」のあるよさを語っていくに違いない。

また、「問い」と「答え」の関係は、「答え」が書かれている位置も重要である。教科書では、「問い」の後、ページをめくってすぐに「答え」の文がある。「問い」と「答え」の

距離が短いのだ。この距離を遠くしてみると、どうだろう。あさがおの事例を書き換えると、「これは、なんのつばみでしょう。ねじれたところがほどこけて、だんだんとひろがっていきます。そして、まるいはながさきます。これは、あさおのつばみです。」となる。文章として問題はなさそうだが、教科書の文と比べてみよう。両方の文章を声に出して読むとよい。音読は内容の理解を助け、文章のリズムを味わうことができる。子どもたちは、「問い」の直後に「答え」があるよさを感じるのだらう。

このように、「問い」と「答え」の関係を理解し、その効果を味わうために文章を比べる活動を行う。これは、説明文の学習でよく用いる手法である。比べることで、子どもたちは見えなかったものが見えてくる。

■ 次の説明文教材へのつながり

次に学習する説明文の特徴を理解することも重要である。「つばみ」と次の「うみの かくれんぼ」の共通点は、同じように「問い」と「答え」があるということだ。

しかし、「うみの かくれんぼ」で「問い」があるのは、1段落のみである。ここが、「つばみ」と決定的に異なる点である。「問い」と「答え」の効果を実感した子どもには、大きな発見となるだろう。今後、子どもは、この形式の説明文を読むことが一般的になる。本単元で学ぶ説明文の学習は、次の教材にどのようにつながるのか。教師の教材研究の奥行きが、子どもの学びを支えるのだ。